

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000066		
法人名	医療法人社団 光仁会		
事業所名	グループホームのはら		
所在地	山口県光市中央3丁目2-13		
自己評価作成日	平成24年6月28日	評価結果市町受理日	平成25年2月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年7月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療連携がとりやすい(隣にある) 食事内容が充実しており、手作りで提供を行っている。 スタッフの年齢層が幅広く、各年齢によっての見方の違いにより、バランスの取れた対応ができる。 職員と入居者がおやつ食事作り、合奏、歌などのレクを共に行うことが多く、一人一人の残存能力を活かすことができる。 家族や面会者の出入りが多く、賑やかである。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の思いや意向、家族や医師等の意見を参考に介護計画を作成しておられ、介護計画は「ケアプラン一覧」として提示され、職員がいつでも確認でき、日々のケアに活かしておられます。介護記録は、利用者の日々の暮らしや様子、健康チェック、服薬、ケアプラン評価、看護師の指示や特記事項、気づきまですべてがわかりやすいように工夫しておられ、利用者の言葉や思いを介護記録に記録され、全職員で共有して、思いや意向の把握に努めておられます。法人内研修や内部研修を毎月計画的に開催される他、全職員がそれぞれの目標や結果について自己評価する「スキルアップ評価」を6か月毎に実施されるなど、働きながら学べるよう取り組んでおられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、職員の見えやすい位置に貼ってある。 午後の業務に取り掛かる前に、毎日理念を読み上げ、全員で再確認している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念をつくり、スタッフルームに掲示し、昼礼時に唱和し、共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園児との交流、地域行事(敬老会など)への参加、近所への買物、理髪店の利用	地域のクリーンアップ作戦に利用者と職員が一緒に参加している。保育園の幼年消防クラブや地域ボランティアとの交流がある他、地域の敬老会や運動会等に参加したり、買い物時や散歩時等で地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に訪れる方に対し、相談に乗りアドバイスしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	昨年の結果及び評価項目ガイド集を回覧し、外部評価で届いた資料にて実施する意義をスタッフで話し合い、理解した。 自己評価の作成の為にスタッフ会議等を行った。	評価の意義を理解し、評価項目ごとに会議で意見を出し合い、全職員で自己評価に取り組んでいる。前年度の外部評価結果を活かし、具体的改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に会議を実施し、前回会議の意見を活かしてのモニタリングを実施している。サービスの報告、理解を得、情報を共有している。職員にも議事録を回覧報告し、情報を共有している。参加者は自治会長、消防、地域包括、家族で開催している。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況を報告する他、前回の会議録等を提示して、その後の取り組み状況や改善点などを報告して、意見交換している。議事録は職員全員で供覧し、情報を共有して、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括の方に出席してもらい、サービスの取組を理解してもらい、アドバイスをいただいている。日常でも必要時には相談し、助言をもらっている。	運営推進会議の他、電話等で相談し、事業所の取り組みについて助言を得るなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交通量の多い国道の交差点に位置しているため、安全の為に玄関の施錠を行っている。契約時にその旨説明して、納得、理解していただいている。現在拘束の対象はほかはないが、身体拘束について理解するためマニュアルを作成し、研修を実施している。	マニュアルがあり、研修を実施し、ミーティングで確認して、身体拘束しないケアに取り組んでいる。事業所は国道に面しており、安全のため玄関は施錠している。散歩や買い物等の外出で、利用者の気分転換に努めている。玄関の施錠について、契約時に家族に説明をしている。	・玄関の施錠についての検討
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、虐待防止について学んでいる。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から相談があれば対応できる準備はしている（現在は実例なし）。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は家族に対し直接説明を行い、納得の上同意のサインをいただいている。改定時にも書面にて説明し、同意のサイン、捺印をいただいている。解約時には情報の提供を行った。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付箱の設置。 家族とのコミュニケーションが取れているためか、家族からの要望は良く出てくる。本人の言葉にはささやかな言葉も傾聴し、苦情につなげるよう努めている。苦情発生時には苦情報告書により職員に周知し、原因を職員全員で共有し、解決策を家族に伝える。	日頃から家族と職員のコミュニケーションをとり、面会時に、家族からの意見や要望を聞いている。出た意見は苦情報告書に記入し、職員全員で話し合い運営に反映させている。苦情の受け付け体制や処理の仕組みを明らかにし、周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と共にミーティングや会議を行い、意見や提案を聞いて、代表者に伝え改善に努めている。 代表者は報告に対して対応している。	月1回会議や日頃の業務の中で、職員の意見を聞く機会を設けている。職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況を把握し、職員の意欲に応じ資格取得が出来るよう支援している。取得した資格をいかせるポジションについてもらっている。個人目標設定のスキルアップ評価を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に研修を実施し、資質向上の取組みを助けている。法人外での研修にも参加できるよう支援している。6ヵ月毎に自らのスキルアップ評価に取り組んでいる。	法人研修や内部研修を毎月計画的に開催している他、外部研修への参加の機会を提供している。全職員が個々の目標を掲げ、その結果を自己評価する「スキルアップ評価」を6ヵ月毎に実施するなど、働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内ではあるが、他事業所GHと会議に参加しあい、質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の自宅に訪問し、状況状態の把握をしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅に訪問した際に、家族の思いを聴いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問面談し、どのサービス利用が良いのか適切に対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人をよく観察し、得意な分野を活かしていただき、穏やかに暮らせるよう、出来ることは職員と共に行い、感謝を示しあっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族の来苑が多く、細かなことでも、家族に 状況を伝えている。遠方の場合でも、電話で こまめに連絡している。面会時には家人の 思いをよく聞く。出来るだけ面会に来ていた だけようお誘いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元会社の同僚や、自宅近所の方などの訪問 面会があったり、入居以前に利用していたお 店に買物に行く、馴染みの場所への外出を するなど関係が途切れないように支援してい る。	文化センターやスーパー、公園など、サービ ス利用前に行っていた馴染みの場所に出か けたり、知人や友人の面会、墓参りの支援な ど、馴染みの人や場所との関係が途切れな いように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	気の合うもの同士で、レクに取組み行動を共 にするようにしている。あちこちに椅子を置いて、 話しやすくしている。職員が間に入り一 人一人が孤立しないように声掛けしている。 一人で過す時間を希望する人は独りで過し てもらっている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の介護サービスの提供現場を相談に 乗り、関係を維持するよう努めている。退所 後もたまに電話をして状況を把握するよう努 めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	職員は利用者の話を傾聴し、本人の思いを 聞き出している。その事を介護記録に記録 し、全員で共有できるように努めている。 それに基づいてケアカンファを行っている。	日々の会話を大切にして、利用者の言葉や 思いを介護記録に記録し、カンファレンス を実施して、思いや意向の把握に努めている。 困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	利用前に自宅訪問を2人で行い、本人、家 人と面談し、生活環境や暮らしぶりの情報を 把握している。フェイスシートにそれを反映し ている。 利用以前のケアマネがいる場合は連絡をと り、情報を共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者の様子観察して、介護記録や排泄記 録表に記録している。 連絡ノートを利用し送りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、かかりつけ医の意見や要望を聞き、カンファレンスで話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行い、介護計画を作成している。状況に変化があった場合はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	家族の要望やかかりつけ医の意見を参考にして、カンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、状況に変化があった場合は、その都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。利用者の介護目標、ニーズ、サービス内容を記録したケアプラン一覧を作成し、職員がいつでも確認でき、日々のケアに活かしている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かなことでも、介護記録に記入し、連絡ノートを利用して朝礼及び昼礼で申し送りを行い、職員間で情報を共有している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	リハビリ等医療と連携し柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市川医院への受診 スーパーやお店への買物 文化センターでの展示物見学 近くの公園への散歩 ボランティアの受入れ		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。また、希望した場合すぐに受診できるよう対応している。	協力医療機関がかかりつけ医となっている。かかりつけ医の週3回の往診、看護師が毎日訪問して健康状態を把握する他、利用者の健康状態を毎晩かかりつけ医に報告するなど、情報を共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する医療機関と連携しているため、看護師は毎日訪問してくる。利用者の状況や変化は必ず看護師に報告し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に対し、入退院時の情報の交換をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し、家族の同意を得ている。かかりつけ医に相談し、家族の意向を聞き、それに沿うように支援している。	指針を作成し、家族やかかりつけ医と話し合っており、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	応急手当と初期対応の研修を行っている。対応のマニュアルが出来ている。マニュアルに沿った訓練も出来ている。AEDを設置しており、定期的な訓練を行っている。	対応マニュアルがあり、ヒヤリハット・事故報告書に記録して検討し、再発防止に向けて、全職員は取り組んでいる。急変や事故発生時に備えて応急手当や初期対応訓練を全ての職員が実施し実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間訓練計画を立てて、消火訓練、停電訓練、避難通報訓練を実施している。運営推進会議に自治会長や消防署に出席いただき、災害対策の話し合いを行っている。	年1回、夜間を想定した消火、停電、通報、訓練避難訓練を、利用者も参加して実施している。運営推進会議に自治会長や消防署職員が参加し、災害対策についての話し合いを行っているが、地域との協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの方の個性を理解し、意思を尊重して対応している。利用者との対話時も聞こえる程度の小声で話す。	法人内研修を実施し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話から、日々のお茶の好みや、TV番組の希望、趣味の希望を聞いて把握するよう努めている。物事を始める前に伺い、自己決定を促している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れの基本はあるが、一人一人のペースを大切にして、希望、選択をしてもらっている。 意思確認を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持込に規制をしておらず、好みのおしゃれがしてもらえるようにしている。季節にあった服を着てもらえるように、衣替えを行い、その中から好みの服を着てもらっている。 定期的な理美容の提供を行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常では、準備や食器洗いなどの後片付けなど出来る事を職員と一緒にして、特別なおやつ作りや、おはぎ作り、恵方巻き、お祝い膳などは、季節感を感じてもらいながら、出来ることには協力をし、参加していただいている。 一緒に作った物を職員と一緒に食べている。	栄養士が作成した献立で、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は、食事の準備や後片付け、食器洗いなど出来ることを職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒に食べながら、食事を楽しむことができるように支援している。外食でのうどんや弁当、おはぎや恵方巻きなどで季節感を味わうなど工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作った献立に基づきバランスが取れた食事になっている。摂取量の記録により、食事及び水分の摂取状態を把握している。毎月体重測定を行い、体重の管理を行っている。咀嚼能力に対応した形態にしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは一日3回実施し、自分で出来る人は声かけし、見守りを行っている。 出来ない方は介助している。 義歯もきちんとはずし、毎回洗っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため、排泄記録表を利用し、適時声掛けやトイレ誘導をしている。	排泄記録表を活用し、さりげない声かけや誘導で、トイレでの排泄の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表で排便の管理をし、食物繊維を摂取できるようなメニューの工夫をして便秘を防ぐ。かかりつけ医に定期的に報告し対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯はおよそ午後と決まっている。順番に決まりはなく、入浴できなかった人には翌日は入れるよう、柔軟な対応をしている。身体機能に合わせて、一般浴と機械浴の提供をしている。	入浴時間は14時から16時30分で、利用者一人ひとりの希望やタイミングにあわせ、入浴が楽しめるように支援している。週3回は入浴できるように支援しており、一般浴の他、機械浴での対応もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜良く休んでいただくため日中は活動的になるよう配慮している。一人一人にあわせ、昼寝をする人もいる。夜間入床は個人の生活習慣に従い、行ってもらっている。外出後は身体を休めてもらっている。入浴後は必要に応じて休んでもらっている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬情をファイルして、薬の内容目的を把握している。状態の変化に伴い医療との連携を行っており、薬変更時には介護記録へ記入すると共に、連絡ノート及び申し送りを行っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある一日となるように、レクリエーション、体操などに用意して支援している。買物と一緒に出かける。	歌、はり絵、ちぎり絵、絵画、口腔体操・花壇の手入れなどの活躍できる場面づくりや、近所の店でのおやつ購入、運動会、文化祭、夏祭りへの参加など、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では、近くの公園に散歩に誘ったり、苑外の花壇での園芸等の支援をしている。車で外出し必要物品の買物を職員と一緒にしている。歩行が困難な方も車椅子を使用して外出している。	事業所周辺の花壇の手入れ、近所の公園への散歩や商店への買い物等の日常的な外出支援の他、桜、梅、バラ・あじさいなどの季節の花見や外食、ドライブなど、戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行って、自分で選び、本人のお金で本人が支払うよう支援している。 お宮やお寺への参拝時にはお賽銭を使用してもらっている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や手紙は取り次ぐ。 暑中見舞いや年賀状を書き、家族へ送る支援をする。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	余計な物は置いていないが、季節の花や季節感のある掲示板の飾りなどがある。 適度な音量で音楽を流す。 季節にあった行事を行っている。	吹き抜けの中庭は、戸外の光が差し込んで明るく、おやつを食べたり、ゲームを楽しんだりできる。リビングのアイランド式の調理台では、職員と一緒に利用者也調理をすることができ、テーブルには季節の花を飾り、七夕飾りなど季節感のある飾りつけをして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ところどころに椅子があり、利用者同士が談話できるようにしている。 狭いながら、中庭があり天気の良いときはおやつを食べたり、日光浴をする等、中庭の有効利用が出来ている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、エアコンが設置されている。 整理整頓、部屋毎に担当職員が決まっている。 入居時には、使い慣れたダンス、衣装ケースなどの家具を持ってきてもらっている。	居室の入り口には暖簾が掛けてあり、自分の居室の目印になっている。利用者は使い慣れた衣服ケースやダンス、机、椅子、家族の写真、お気に入りの歌手のカレンダー等を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーで、必要な場所には手すりがあり、居室はのれんで分かりやすくされている。必要に応じて場所が解るようにトイレや居室に貼り紙をしている。ホール内には必要最低限の物は置き、危険のないように環境整備を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム のはら

作成日：平成25年 1月25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成 に要する 期間
1	自7 外(6)	安全のための施錠をしている	玄関の施錠の意味について検討を行う	毎月のミーティングで現状況の話題を取り上げ、自由な暮らしの支援について話し合う	3ヶ月
2	自36 外(16)	地域との協力体制の構築に至れていない	地域との協力体制を築く	他施設はどのように取り組んでいるか調べ、取り組めることから始める。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。